

下記臨床研究は「東海大学医学部臨床研究審査委員会」の承認および研究機関の長の許可を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。

本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡ください。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。

本研究の研究対象者に該当すると思われる方で試料・情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は担当者にご連絡ください。なお、その申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。

ヒト顔形状に関わる遺伝要因の解明と顔形状予測ソフトの開発（ゲノムモニタージュに関する研究）

1. 研究の対象

本研究では新たに被験者を募集するほか、以前に実施された以下の研究で取得した試料・情報を使用します。

- ・東海大学医学部における研究課題（１）「顔形状を含む可視形質を規定する遺伝要因に関する双生児研究」（2017年1月23日から2019年3月31日まで、東海大学医の倫理委員会 16I-25）および研究課題（２）「ヒト顔形状に関わる遺伝要因の解明と顔形状予測ソフトの開発」（2020年6月10日から2023年3月31日まで、東海大学医の倫理委員会 20I-09）にて被験者となった方のうち、他の関連研究でDNA試料と顔形状等の情報を使用することを同意いただいた方。

上記（１）は慶應義塾大学文学部における研究課題「顔形状を含む可視形質を規定する遺伝要因に関する双生児研究」（代表：安藤寿康教授）の一部であり、多くの双生児の方々にご参加いただいたものです。上記（２）は東海大学内で開催された顔形状測定会に参加いただいた方々です。

2. 研究目的・方法

目的 個人のゲノム多型の情報を使い、その人の顔形状を予測するソフトウェア「ゲノムモニタージュ」を開発することを目的としています。そのため、多くの日本人ボランティアの顔の3D形状とゲノム多型のデータを収集し、それを計算機で解析して、顔の形を決めるゲノム多型を特定します。次にこの結果を使い、機械学習などの技術を駆使して予測ソフトウェアを開発します。この研究が成功すれば、法医学の分野で役に立つ

個人同定のための技術が実現できます。さらに、顔形状がその他さまざまな形質とどのような関連があるのかを明らかにすれば、ヒトの形についての理解を深めることができます。

方法 以前の研究にて集めた顔の 3D 形状データと生体計測等の情報、ゲノム多型データを再利用します。また、新たに被験者を募集して同様の試料・情報を取得します。解析にあたっては、個人の氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・ 試料：口腔内粘膜細胞およびそこから抽出したゲノム DNA
- ・ 情報等：顔形状 3D データ、生体計測値、色測計による皮膚色、質問票（出身地等）等

4. 情報の提供先・提供方法

上記の試料に対するゲノム解析結果と顔形状 3D データ等は、研究目的のため、匿名化された状態で共同研究機関である琉球大学大学院医学研究科・木村亮介教授へ提供する場合があります。

5. 利益相反に関する事項

この研究は、特定企業等からの直接的な資金提供はないため利益相反はありません。

6. お問い合わせ先

東海大学医学部 （電話：代表 0463-93-1121 内線：2140）

研究責任者・問い合わせ窓口

医学部医学科基礎医学系分子生命科学 今西 規